

## 人権教育に関する特色ある実践事例

基準の観点	地域や関係諸機関との積極的な連携・協力が行われている実践事例
-------	--------------------------------

### 1. 基本情報

都道府県名及び市町村名

福島県田村市

学校名

田村市立芦沢小学校

学校のURL

<http://www.ashizawa-e.fks.ed.jp>

### 2. 学校紹介

学級数

・各学年単学級、4・5年（複式学級）特別支援学級（0）

児童生徒数

・1年（15）2年（11）3年（17）4年（6）5年（10）6年（16）

学校の教育目標、人権教育に関する目標など

高度情報化社会、国際化社会、高齢化社会を支える児童の「生きる力」を育むためには、一人一人の存在価値を自覚させ、異質なものを受け容れ、「人権の共存と共生」の考え方を大事にして心豊かに生活できるような資質や能力を培うことが求められている。

本校の教育目標の重点として「学び合い」「助け合い」「励まし合い」「きたえ合い」という4つの「合い」を掲げている。これは、児童一人一人がそれぞれ自分らしさを発揮し、互いに認め合い、向上していく学級・学習集団をつくっていくことを目指しているものである。この目標に近づくためには、相手の気持ちを考えること、自己を見つめること、そして集団としての考え方を持つことが大切であると考える。以上のことから本研究主題を設定した。

人権教育にかかる取組の全体概要

#### 【研究主題】

「自分と他のよさを認め合い、思いやりを持って行動できる児童の育成」

#### 【主題を設定した理由】

- ・人権教育との関わりを教育課程の年間指導計画に明記し、全教育活動で人権を意識した取組みをする。また、道徳を中心にして授業研究を行う。各教科の授業においても、周りの人や集団との関わりを大切にするとともに、自分の考えと異なった考えも受け入れながら自己の考えを積極的に伝えることができる態度を養う。
- ・道徳以外の特別活動、外国語活動、総合的な学習の時間などにおいても、人権感覚を養うための授業実践や環境作りを工夫する。

- ・船引南中学校との交流活動を通して、助け合いながらお互いを思いやる心や人権感覚の醸成を行う。

### 3. 特色ある実践事例の内容

#### 【地域に発信する活動】

- (1) 児童とともに考える活動
  - 「あしざわしくさ」運動      高齢者とのふれあい活動      戦争体験者の方の講演会
  - 小・中連携体験教室              車イスバスケット選手との交流学习
  - 盲導犬と生活している方の講演会
- (2) 保護者とともに歩む活動
  - 音楽療法士の講演・コンサート
- (3) 地域とともに広がる活動
  - 人権教育講演会                      人権教育コンサート

### 4. 実践事例の実績、実施による効果

#### 【事業の組織及び推進体制】

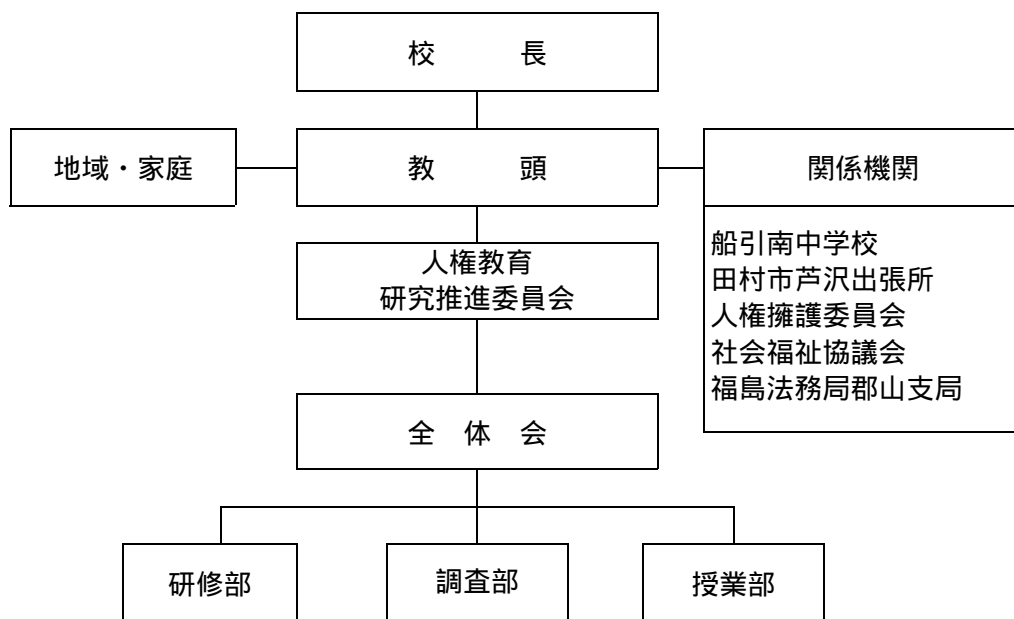
- (1) 推進体制全体の概要
  - 人権教育研究推進委員会(教頭、各研究部主任)
    - ・研究計画の立案
    - ・各部会、学年間の連絡調整
  - 全体会
    - ・研究主題、研究内容、研究計画の確認
    - ・文献等による理論研究
    - ・授業研究、各種体験活動による実践と検証
  - 研究部会
    - 研修部
      - ・人権に関する資料等の提示
      - ・人権感覚を育む体験活動の計画立案
    - 調査部
      - ・実態調査の計画、実施、分析
      - ・児童の評価、教師の評価等の実施と分析
    - 授業部
      - ・授業研究会の計画立案
      - ・外部講師による講話等の計画立案
      - ・環境構成(掲示物等の充実)



車イスバスケット選手との  
交流学习



小中連携体験教室



(2) 関係機関の概要

- ・ 田村市立船引南中学校
- ・ 田村市芦沢出張所
- ・ 人権擁護委員会
- ・ 社会福祉協議会
- ・ 福島法務局郡山支局

(3) 組織及び推進体制構築に当たって特に留意した点等

船引南中学校とは、小・中連携事業を推進できるように打ち合わせ等を密に行った。

また、その他の各機関については人権関係体験教室や講演会の講師紹介を依頼したり、人権教育推進の助言指導を受けたりしてきた。

**【研究の経過及び内容】**

時期	研究内容
平成22年4月	校内研究推進委員会 人権教育に関わる年間研究計画検討
4月	船引南地区小・中連携教育推進委員会 船引南地区の3校(芦沢小学校・船引南小学校・船引南中学校)が連携して、学習や生活について共通理解の下に指導できるように協議した。
5月	人権教育に関わる理論研究
6月	全体会(授業研究会の計画)
7月	第1回「学級集団の傾向を把握するためのアンケート」(全校生) 学級生活の満足度等について調査し、学級経営の改善に生かすことができた。
8月	各研究部会・関連機関への講師依頼
9月	第1回研究授業(道徳)1年 <b>人権教育講演会</b> 人権擁護委員の方を招き、PTA行事と併せて講演会を実施した。保護者多数が参加し、地域の方々にも人権についての意識をもってもらえた。



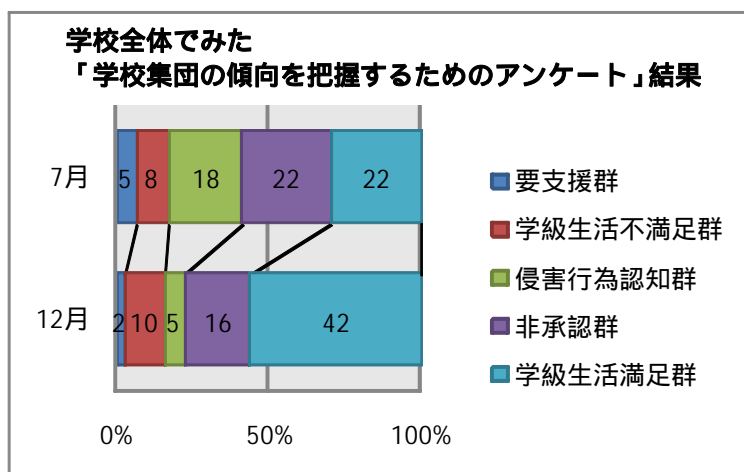
	<p><b>小中連携道路美化活動</b></p> <p>本校児童と船引南中学校生徒、両校の保護者、地域住民も含めて学区の通学路を中心にゴミ拾いを実施した。</p> <p>地域の美化とともに人と人とのふれあいの機会とすることができた。</p>
10月	<p>第2回研究授業（道徳）4・5年</p> <p><b>「あしざわしぐさ」運動</b></p> <p>人権や道徳、マナー等に関わる内容について児童に、「あしざわしぐさ」を考えさせ、校内に掲示して全校生で生活に生かせるようにしてきた。</p>
11月	<p>第3回研究授業（道徳）6年</p> <p><b>高齢者とのふれあい活動</b></p> <p>地域の高齢者グループの方々、生活科の学習でゲートボールや団子さしなどの活動を共にすることで、交流の機会を得ることができた。</p> <p><b>音楽療法士の講演・コンサート</b></p> <p>音楽療法士の近藤美智子氏を招き、学習発表会の後、児童・保護者に向けて人権教育を念頭に置いたテーマで講演・コンサートを実施した。</p>
12月	<p>第2回「学級集団の傾向を把握するためのアンケート」全校生)</p> <p>第4回研究授業（道徳）2年</p> <p><b>戦争体験者の方の講演会</b></p> <p>長崎で原子爆弾の被害を体験した方を招き、6年生の社会科の学習と関連させて講演を聴講し、戦争の悲惨さや人権について深く考えさせられた。</p>
平成23年1月	<p><b>人権教育コンサート</b></p> <p>芦沢出張所との連携でシンガーソングライターの菊池章夫氏を招き、芦沢小学校を会場に実施した。</p> <p>芦沢地区全戸に案内を配付し、約百名の聴講者があった。菊池氏の豊富な体験に基づいた講話や歌に感銘を受けていた。</p> <p><b>小・中連携体験教室</b></p> <p>芦沢小学校・船引南小学校の6年生と船引南中学校の1・2年生が、坐禅、郷土料理作りなどのコースに分かれて一緒に活動し、異年齢の児童・生徒が体験活動を通して交流を図ることができた。</p> <p><b>車イスバスケット選手との交流学習</b></p> <p>4・5年生の総合的な学習の時間において、福祉の学習の一環で実施した。子どもたちは、障がいにならずに生きる前向きな態度に感動し、実際に車イスを体験することができた。</p> <p><b>盲導犬と生活している方の講演会</b></p> <p>3年生の国語、総合的な学習の時間において、盲導犬を実際に連れて来校していただき、盲導犬との生活の様子を講演していただいた。</p> <p>子どもたちは、疑問点を積極的に質問し、障がいのある方や盲導犬への理解を深めることができた。</p>
2月	今年度の研究とまとめ
3月	次年度の研究計画立案

## 5. 実践事例についての評価

### 【研究の成果】

(1) 4回の授業研究会を実施した。道徳の授業を全員で参観し、市教育委員会や県中教育事務所指導主事に指導助言を得て事後研究会を実施した。このことにより教師の道徳や人権教育の授業力が向上した。

- (2) 学級集団の傾向を把握するためのアンケート」を7月と12月の2回実施した。調査結果を参考に学級経営を見直し、共感的な雰囲気作りに努めてきた結果、学級生活に満足している児童が増加してきている。
- (3) 総合的な学習の時間や生活科の時間を中心に体験的な活動の機会を多く設定し高齢者やゲストティーチャーとのふれあいの場を設けてきた結果、様々な立場にある人が共に手を携えて生きていることを理解したり、コミュニケーションの技能が向上したりしてきている。
- (4) 校内に児童が作った「あしざわしぐさ」の標語を掲示したり、各学級で「ありがとうカード」の掲示をしたりして、普段から人権意識を啓発するような環境整備をしてきた。また、教師も授業ばかりでなく日常の学校生活から手本となるような言葉づかいを心がけるなど、学校全体で児童を取り巻く環境に配慮してきた。
- (5) 9月、11月、1月の講演会や人権コンサート実施後、アンケートをとったり、意見を聴取したりした。「子どもが持っている人権についての大切さや親としてどのように子どもに接していくべきか分かった」などの意見が出された。



人権教育講演会



音楽療法士の講演・コンサート

### 【成果を踏まえての課題】

- (1) 本年度は道徳の授業を中心に授業研究を行ってきたが、学校教育における「人権教育の在り方」について探り、教科においても特性を失わないよう心がけながら授業実践を重ねていきたい。
- (2) 教師、児童、保護者共に人権そのものに関する理解をより深めていき、理解するだけにとどまらない実践力を身につけることができるような手立てを探っていきたい。
- (3) 体験活動をより充実したものとし、人や地域との関わりを通して、人間関係を築く能力や思いやりの心を育てていきたい。
- (4) 地域人材の活用をよりすすめ、いろいろな分野でゲストティーチャーとして協力していただくことでさらに充実した教育が展開できると考える。
- (5) 児童会活動については、各委員会での人権に関わる活動が単発的で関連性の点でまだ改善の余地があり、全校集会等の企画も含めて活性化していきたい。

## 【 人権教育の指導方法等に関する調査研究会議によるコメント 】

### 田村市立芦沢小学校

児童数 75 名, 4・5 学年が複式学級という小規模校で, 地域や関係諸機関との積極的な連携・協力を行っている事例である。

小規模校は, 人間関係や役割分担の固定化, 閉じた人間関係によるコミュニケーション能力の形成不全や語彙不足等々の傾向に陥りがちである。しかし, 本校では, 年間を通じた意図的・計画的な教育活動( 地域の高齢者や障害者, 戦争体験者, 人権問題に向き合って活動している方々等との感動的な出合いを仕組んだり, 小小, 小中の異年齢交流・協働体験を行ったりするなど)を行うことによって, 児童が様々な人々に見守られていることに気づき, 自己肯定感が形成されていくなどの成果を上げている。

また, 人権や道德に関する内容を具体的な行動を示す言葉(「あしざわしぐさ」)にして校内に掲示することによって, 人権尊重の実践行動力が効果的に形成されている。